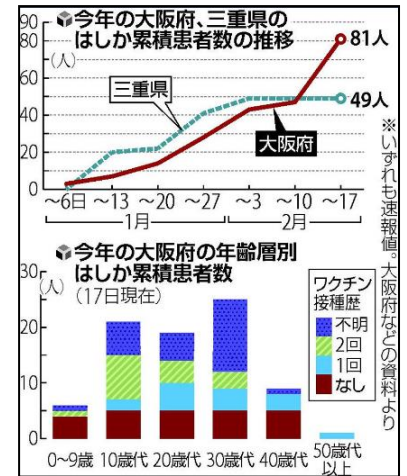
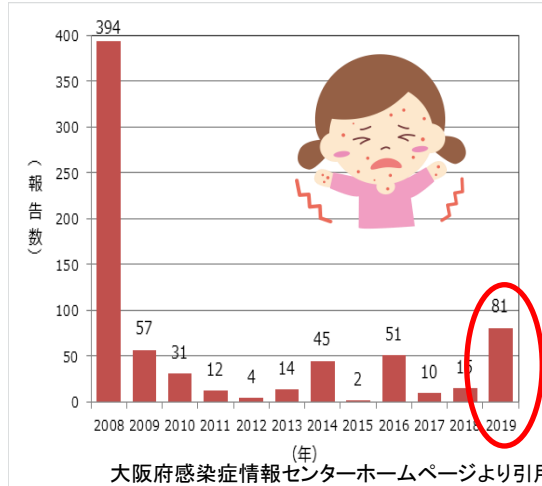
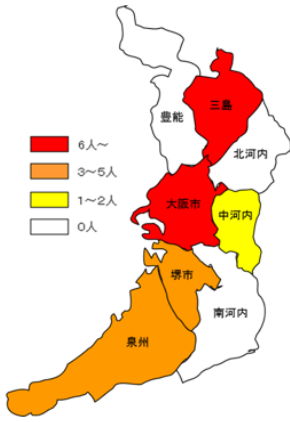




小惑星探査機「はやぶさ2号」が地球近傍小惑星「リュウグウ」に無事に着陸したと報じられ、日韓関係やイジメ問題で下向きな世の中の話題に一花咲かせてくれましたね。無事にサンプルリターンできれば生命の起源に迫れるかも知れないというプロジェクト。これからも目が離せません。

さて、医療の分野ですが、先日ハルカスで発生した麻疹に注目。当院でも、外来患者で麻疹の患者さんが発生いたしました。2019年この地域において目の離せない病気になりそうです。

麻疹の発生状況
2019
2月
時点



2月の時点で大阪府内でこの数値は、2019年の麻疹大流行を示唆しているのかもしれない。



現在、20歳台後半から40歳台前半の人は、予防接種が未接種あるいは1回しか受けていない可能性が高く、感染を防ぐ十分な免疫がないことが考えられます。

ワクチン接種による抗体を充分持っけていても、個人の免疫力が弱っているタイミング等に感染する修飾感染のリスクがあり油断は禁物です。発熱患者に対しては問診と診察をしっかりと行い、皮疹などが存在すればすぐさま検査を行わなくてはなりません。



問診
ポイント

- 発熱・咳・鼻汁症状
- 熱から3日後過ぎた赤みを伴う発しん
- 1ヶ月以内に麻しん(はしか)と診断された患者に接触した可能性

麻疹は空気感染でインフルエンザの10倍の感染能力がある上に、通常のマスクでは予防できません。麻疹が疑われる人が診察に来た際にどのようにしたらよいのでしょうか。



- ①麻疹が疑われる患者は速やかに個室へ隔離。
- ②対応は2回以上の予防接種をしたもしくは抗体価が確認できている職員で行う。(確認できていない職員が対応するときはN95マスクを着用)
- ③診察の結果、麻疹が強く疑われる際に、麻疹ウイルス遺伝子検査のための3点セット(EDTA血、咽頭ぬぐい液、尿)を採取し保健所へ、麻疹IgM IgGを病院として提出。



麻しんは全数把握疾患です。麻疹を疑ったら、まずは保健所に一報しましょう。ワクチン接種がまだの1歳未満の乳児との接触があれば対応に緊急を要するため、必ず聞いておくように。また患者周囲の人間で感冒症状のある人に関しては、医療機関に早めの受診を促すように指導しましょう。